

【めむろ未来ミーティング】

令和5年2月8日(水)

18:30~20:10

手をつなぐ育成会

芽室町どんぐり会

- 参加者 芽室町どんぐり会 10人
- 芽室町 町長、健康福祉課長 障がい福祉係長
政策推進課長補佐

■対応・検討が必要な事項

①御影にあるような、障がい者が高齢になっても入れる施設を芽室にも作ってほしい。(健康福祉課)

- 1 町長挨拶
- 2 芽室町どんぐり会代表挨拶
- 3 自己紹介
- 4 意見交換

テーマ

「障がいを持つ人たちの生きづらさ」

●町長挨拶要旨

コロナの影響により、対面での未来ミーティングは3年ぶりとなるが、皆さんの困りごとや感じていることを、ざっくばらんにお話いただければと思う。ご意見をしっかり聞いたうえで、行政として、できること、できないことを整理し、しっかり検討していきたいと思う。

●芽室町どんぐり会代表挨拶要旨

いま、世間でも「多様性」という言葉が色んな場面で使われるようになってきている。今日はこの「多様性」についての共有と本音の部分での話し合いができる場としたい。

●どんぐり会

本日の意見交換したい内容は以下の5項目。

- ① 障がい者及び関連団体(保護者会等)のネットワークについて
施設事業所に所属せず一般就労している障がい者などで、横の繋がりがなく孤立しがちになっているケースがある。我々には、そういった情報がないので、お互いの情報交換や困りごとの助言などを行えるような障がい者のネットワーク的なものを作りたいと思っている。ネットワーク構築のために、町に手助けをしてもらいたい。
- ② 障害程度の判定によって生じる様々な格差への公的支援について
知的障害A判定には国による手厚い保護がある。一方、B判定は、極めてA判定に近いものから、普通の人と変わらない程度のものと、幅が広いにも関わらず、支援の部分で不公平を感じる。もう少し手厚い保護をお願いしたい。
- ③ 予防接種を含む医療費負担に対する高齢者並の支援について
インフルエンザ予防接種や医療費負担について、高齢者並の負担となるような補助を実施してもらいたい。
- ④ 障がい者の終の住処となり得る生活の場の確保について
障がいの子も高齢化していく中で、親亡き後の不安を強く感じている。障がい者に寄り添ったホームが必要。障がい者が要因で、老化のスピードも速いと感じている。普通の人70歳とすれば、障がい者の場合は60代前半でそういったホームに入所しなければ生活ができないということも考えられる。障がい者にとって安心できる終の住処となる場所を考えてほしい。
- ⑤ 一般企業への就労者に対する支援について
現在は、法改正により障害者雇用制度ができたため、企業側も障がい者を雇用するところも増えている。そんな中で、通勤手段や、障がいという壁による人間関係の問題が出てきている。そういう部分について、町としてサポートしてもらえる体制

をお願いできないか。

◇「障がい者及び関連団体(保護者会等)のネットワークについて」の件

●町長

いまは、それぞれのプライバシーを尊重するという時代。障がい者団体への加入も個人の選択となり、町内会と同じように、町として強制的に介入することは難しい。障がいによって、どんぐり会や身障分会といった色々な団体がある。町としては、できる範囲でそれらを把握してネットワーク化をお手伝いすることはできるとは思っている。

まだ芽室にはないが、「地域活動支援センター」というものに、そういったコーディネート役の機能を持たせるというのも一つの手法である。ただし、各団体の意向もあるので、その辺の調整をしっかりとしなければ、簡単にいかない。

もう一つは、町民活動支援センターの活用。障がいがあるないに関わらず、いろんな町民団体をフォローするというのが、町民活動支援センターの役割。そういう所と連携しながら進めていくというのも、一つのやり方。

町としても、団体に加入している方や手続き等で頻繁に来られるような方の状況等は把握しやすい。しかし、個人個人で手帳を持たれた方たちの全部の追跡は、現実的には難しいという課題がある。団体の加入率も増やし、そして団体同士の連携もする、この両方をうまく進めていかなければならないのだと思う。

◇「障害程度の判定によって生じる様々な格差への公的支援について」の件

●町長

療育の場合は、AとBの2つしかなく、その基準も曖昧であり、さらにBの中の幅が広すぎるというのはご指摘のとおり。しかし、これは全国的に統一された基準。国に対して、その基準をもっと細分化あるいは明確化するとか、AとBの差をどうやって埋めていくか、このあたりを訴えていくことが大事なと感じている。

●どんぐり会

A判定は医療費負担が1割。障がい者年金の額もAとBでは全然違う。Bは入ってくる収入が小さく、支出する負担の割合が大きい。その格差を、町として対応できるところを補助してもらえないか。

●町長

国の公的サービスを、町ですべて補てんすることは現実的に難しい。仮にB判定の方に補てんした場合に、次はA判定とのバランスが崩れることになる。予防活動だとか、いろいろサービスを検証していく中で町ができることを進めていきたいとは思いますが、根本的なAとBの格差解消を町で対応することは厳しい。

●どんぐり会

町の補助制度が色々な分野であるが、B判定というだけで、申請すら受け付けてもらえない場面がある。高齢者の場合、たくさん年金をもらっているケースでも、そういった補助が対象となったりしている。

Bでも働けず収入がないのであれば、そういう部分に目を向けてもらいたいと思う。

●健康福祉課長

コロナ以降、一人10万円ずつの臨時給付金、燃料高騰による給付金など、これまでも行政として給付を行ってきた。これには、一定の基準や要件を作って、公平性を担保しながら進めている。障がい者が受ける介護療養費とかいったものは、障がいの区分やご家族の状況で細分化されており、それに基づいて対応している。

平成10年代に入ってから、障がい者の自立支援体制が大きく変わって、社会資源も充実し、ケアマネジャーや相談体制も整備されている。かつては金銭的な給付が大部分であったが、いまは、相談体制の充実に力を入れている。皆さんが抱える困り事などは、そういったものを活用していただければ、何らかのお役に立てることがあるかもしれない。

●町長

話を聞いていて、やはりBの幅については問題があると感じる。しかしどこかで基準の線は引かなければならないことは理解してほしい。国に対しては、もう少し細分化すべきだとか、あるいはB全体のサービス内容をアップさせるとか、そういう声を上げていければと思う。相談内容によっては、町の範疇でできる部分もある。後でテーマとして出てくるインフルエンザワクチンなどは、町の裁量となる部分。A判定B判定の総合的な見直しを1自治体でやろうとしても、それは厳しい。それよりは、町の裁量でできる部分を少しずつ改善していくのが良いのかなと感じている。

◇「予防接種を含む医療費負担に対する高齢者並の支援について」の件。

●町長

実は、高齢者からも、「もう少し補助率を上げてほしい」という声も上がっている。町は、他にも、中学3年生の子どもに受験対策ということで支援している。障害のある方、高齢者の方、お子さん、そして町民全体に対する予防接種の考え方を一度きちんと整理する必要があると考えている。

今後は、インフルエンザだけではなく、コロナもセットで考えなければならない。いま、やるということは言えないが、気持ちの中では支援できる方向にしたいなという思いはある。

ただ、対象とする障がいの区分や程度をどうするかという課題もある。財源も含めて、町全体として総合的に検討していく。

◇「障がい者の終の住処となり得る生活の場の確保について」の件

●町長

障害者福祉計画の中に、グループホームや施設整備などについても記載をしている。令和5年度に第7次障害者福祉計画を策定予定であり、当然そこには、皆さんのニーズも踏まえて、進めていくことになる。町が直接的に施設整備することは考えていない。町は計画をしっかり立て、参入いただける民間事業者

と調整を行いながら、支援をしていく立場でやらせていただきたい。皆さんがどういう施設を望んでいるかといった意見交換が非常に大事だととらえている。

●障がい福祉係長

今後は計画策定にあたり、アンケート調査も実施予定である。

●町長

今、町内にはグループホームが6箇所あって34床全部満床状態。町として必要なベッド数、部屋数をしっかり捉えながら整備していく必要がある。

●どんぐり会

御影に、障がい者が高齢になっても入れる施設がある。芽室にもそういった施設がほしい。意見①

●町長

高齢者施設と障がい者施設をどのように整理しているのか、どういう基準で、高齢になった障がいの方を受け入れてるのか。そのあたりの仕組みを調べさせてもらう。

◇「一般企業への就労者に対する支援について」の件

●町長

令和4年度から通勤サポートを実施している。単純に送迎だけでなく、就労に関する相談や悩みに寄り添う、ホームヘルパー的な見守りの役割もあると認識している。こういった個別の対応を継続していくことは必要。

企業側も、障がい者の雇用率というものがある。担当も直接企業に出向き、頻繁に説明をさせてもらっている。ただ、やはり重度・中度となると一般就労は難しいケースもある。一方で、根気強く仕事に集中するという秀でた能力を持つ方もいる。そういったことを見極めたマッチングが非常に大事。やはりケアマネージャー的な存在や相談体制がとても重要だととらえている。

●どんぐり会

一般就労した人の、その後の定期的な支援や関わりが現状ないように思うが、そういうサービス支援を町として行っていく考えはないのか。今後、一般就労する人も増えてくる中で、オークルに居れば親が居なくてもサポートしてもらえると安心感があるが、一般就労した子へのサポートはどう関わってくれるのか不安である。

●障がい福祉係長

一般就労した方というのは、障がい者手帳の有無とは別に、障害福祉サービスを切られてしまうというのが基本的な考え方。そのようなこともあり、一般就労者向けに実施している通勤サポートは、送迎だけではなく、その送迎を介して、悩みや困りごとなど、生活面を総合的にサポートする意義を持たせている。

●どんぐり会

一般就労すると、障害者手帳を持っていても、ケアマネージャーのようなサービスも無くなるということか。仮に、一般就労がうまくいかなかった場合、元のように障害福祉サービスを受けることはできるのか

●障がい福祉係長

一般就労すると、基本的には、ケアマネージャーは外れることになる。障害福祉サービスを残して、ケアマネを残すというのは、なかなか厳しい。一般就労からA型、B型事業所に戻るような場合は、障害福祉サービスをまた受けることはできる。そういった事例は日常的にある。

●町長

一般就労すると、制度的には障がい者福祉サービスから外れてしまうというのは、基本的な考え方かもしれない。しかし、誤解してほしくないのは、皆さんがかかえる困りごとや悩みといったものは、町として相談をうけ、窓口としては対応したいと思っている。ただし、自分でその課題意識や問題意識持っていない人をどうするかということも課題としてある。

●どんぐり会

プロジェクトめむろというものが根本的に何なのかよくわからない。設立当初に保護者に説明があり、その後2回程の話し合いがあったが、コロナ以降途絶えている。また、国立農試跡地の障がい者活躍ゾーンの動きも説明してほしい。

●健康福祉課長

プロジェクトめむろは、福祉に軸足を置いた営利を追求しないNPO法人。通勤サポートも、町がプロジェクトめむろに委託している。九神ファームができたあたりから、プロジェクトめむろが創立され、それ以来、町と一緒に障がい福祉に関する取り組みをしている。町内でそういったところをやっている法人はプロジェクトめむろだけ。スタッフの人材も豊富であり、今後も、支えあいながら取り組んでいきたいと考えている。

障がい者活躍ゾーンの話がでたときに、議会から、将来像や実態が分かりづらいという声があった。今は、放課後デイサービスが動いているが、それらを含め一体となった、地域活動支援センターのようなものをやれたらいいと思っている。

●町長

あの場所を障がい者の活躍するゾーンにするがよいのではないかと話している。ただ、具体的にどんな機能だとか、財源までは明確になっていない。今後、どうしていくかという議論となる。その中で、地域活動支援センターや他の発想が入ってくるかもしれないという話。議会からもいろいろ指摘もいただいている。具体的なものがみえてきた段階で、皆さんにお話したいと思う。プロジェクトめむろについて、事業者からの説明が不足していた部分もあると思うので、その旨を事業者側にも伝えたいと思う。

●どんぐり会

障がい者もコロナ以降、外出の機会が少なくなっている。芽室町には高齢者を対象にした体力を維持するた

めの運動の機会がたくさんある。障がい者にも、そうした運動塾のようなものがあったらよい。そこからネットワークが広がると思っている。行政が、そのきっかけ作りを各団体に呼びかけてもらいたい。

●健康福祉課長

障害者福祉計画策定の際は、アンケートをとる予定。町全体としても地域共生というのは大事なテーマ。町としてどこまでできるかという課題はあるが、おっしゃるような地域交流ができるような施設であったり、機会というものを、計画の中で整理していく必要があると感じている。今後何ができるか考えていきたい。

●町長

高齢者でもそういうグループを卒業した人達が、新たな活動を始めるといった流れあるので、そういう意味では不可能ではない。まずは、どんぐり会+オーケル保護者会といったところが連携して、始めていくというの、あるのかなと思う。

●どんぐり会

両親がいなくなったら、ホームヘルパーにきてもらいながら、自分ひとりで生活することはできるか。

●障がい福祉係長

町内には、障がい者手帳を持った人で、ヘルパーや訪問看護師が入りながら、1人で生活している人は何人もいる。ただし、ケアマネも含めて、入る時間や曜日、いろんな調整が必要となる。まずは、どの部分に支援が必要か、そういう話し合いが必要。

●どんぐり会

これから第7期障害者福祉計画でアンケートもあるようなので、どういことを求めているかっていうことをこちらからも積極的に提示していきたい。町との相互のやり取りを通して、また新しい形の福祉ビジョンができてくることを期待している。



(芽室町どんぐり会とのミーティングの様子)

20時10分終了